

第58回 医学教育セミナーとワークショップ in 香川

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。

第58回医学教育セミナーとワークショップは、香川大学医学部医学教育学講座と共同開催いたします。奮ってご参加ください。

香川大学 医学部医学教育学講座 岡田 宏基
岐阜大学 医学教育開発研究センター 藤崎 和彦

日程 2015年10月17日(土)～18日(日)

会場 サポートホール高松 (5階)

- 2015 秋
- WS-1 心身医学教育の実践 **CD**
 - WS-2 学生・若手医師のキャリアデザイン ～系統的キャリア形成支援 **M/L**
 - WS-3 Work-Based Assessment: 臨床実習から専攻医指導まで **A**
 - WS-4 模擬患者大交流勉強会 **T/L**
 - WS-5 指導医のモチベーションをどう維持するか? **M/L**
 - WS-6 医療者教育における反転授業ことはじめ **T/L**
 - WS-7 社会科学・行動科学のPBLチュートリアルのための臨床症例のシナリオ教材の作成 **T/L**
- セミナー** Peer-Assisted Teaching
- A tool to be considered at Japanese medical schools? - **T/L**

※ 記号 (**CD** 等) は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細はMEDCホームページ「アソシエイト・フェロースhipのご案内」をご覧ください。

プログラム					
17日(土)	午後	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4
	夕	セミナー			
	夜	懇親会			
18日(日)	午前	WS-5	WS-6	WS-7	WS-4

WS-1 心身医学教育の実践

CD

企画： 岡田宏基（香川大学）、福永幹彦（関西医科大学）、天野雄一（東邦大学）、網谷真理恵（鹿児島大学）、小山敦子・奥見裕邦（近畿大学）

日時： 10月17日(土)13:00-17:00

概要： 心身医学は臨床的にその重要性が叫ばれながら、実際には対応できる医師が十分ではありません。心身医学マインドを持った医師が増加しないことの一因として、多くの大学での卒前教育に心身医学教育が十分には盛り込まれていないことが想定されます。ここでは、既に心身医学教育を行っている大学の教材を持ち寄り、心身医学講座がない大学でも授業が可能な、心身医学教育モデルカリキュラムの作成を目指したいと思います。心身医学教育に関心をお持ちの方にはどなたでも参加を歓迎いたします。

対象： 心身医学教育に関心をお持ちの方（定員30名）

WS-2 学生・若手医師のキャリアデザイン ～系統的キャリア形成支援

M/L

企画： 賀来 敦・村田亜紀子（岡山家庭医療センター）、里見なつき（東海大学）

日時： 10月17日(土)13:00-17:00

概要： 2004年度からスタートした新医師臨床研修制度に加え、2017年度からは新専門医制度開始が予定されている。後期研修プログラムの制度化に伴い、さらに学生・研修医の選択肢が広がり人材の流動化が進むと思われる。一方、マッチング説明会・医局説明会等の進路指導は個別に実施されているが、系統的なキャリア教育は医学部では未発達である。今回、「医師のキャリア形成様式の変遷が社会背景からどのような影響を受けてきたのか」を解説し、学生・研修医の支援に必要なキャリア理論をキャリア概念の理解を中心に提供する。またキャリアビジョン（将来の希望進路の明確化）の支援に必要な「キャリア・プランニング・プロセス」について概説し、キャリアデザインワーク・進路決定支援ワークを実際に体験する。

対象： 医学教育・キャリア支援に関わる方、医学生、研修医、指導医、病院管理者、大学教育関係者など（定員30名）

WS-3 Work-Based Assessment: 臨床実習から専攻医指導まで

A

企画： 鈴木康之（MEDC）、西屋克己（香川大学）、高村昭輝（金沢医科大学）、小西恵理（松江赤十字病院）

日時： 10月17日(土)13:00-17:00

概要： 臨床能力の評価法には様々なものがありますが、近年、臨床現場での評価 Work-Based Assessment (WBA) の重要性が指摘されています。OSCEが“shows how”の評価であるのに対して、WBAは“does”の評価であり、実践能力の評価のためには今後不可欠になってくると思われます。またWBAは卒前の臨床実習から専門医研修にいたるまで、幅広い臨床教育の場面で応用可能です。このワークショップでは代表的なWBAを紹介し、評価を実際に体験し、導入時の問題点などを議論します。

対象： 臨床指導医、研修医の方（定員20名）

WS-4 模擬患者大交流勉強会

T/L

企画： 藤崎和彦（MEDC）、余島侑子（香川大学医学部SP研究会）、長宗雅美（徳島大学）

日時： 10月17日(土)13:00-17:00、18日(日)9:00-13:00

概要： SP大交流勉強会は、岐阜、徳島、東京、札幌、広島、千葉、沖縄、東京、博多、そして今回は埼玉と全国各地で開催されてきました。今回は、四国の地として2回目となる高松での開催です。1日目はSPさん同士による大交流会、2日目にはシナリオづくりや新人さんのルートについて学べる勉強会を予定しています。SP参加型医療コミュニケーション教育は共用試験を実施している医学、歯学、薬学だけでなく、看護やリハビリ、鍼灸などにも急速に拡大が続いています。全国のみなさん、是非、高松にお集まりください！

対象： 模擬患者参加型教育にかかわる模擬患者、教員、指導者、学生、研修医、医療スタッフ（定員60名）

WS-5 指導医のモチベーションをどう維持するか？

M/L

企画： 江村 正・末次典恵（佐賀大学）、尾原晴雄（沖縄県立中部病院）

日時： 10月18日(日)9:00-13:00

概要： 「指導医のモチベーションが保てない」という嘆きの言葉を良く聞くので、第54回の本会で、「指導医のモチベーションをどう維持するか」と題するワークショップを行った。その際、他の医療職の指導者も同様の悩みを抱えていることが判明した。そこで今回は対象を広げ、臨床指導者のモチベーションに影響を与えるものは何か、臨床指導者のモチベーションを維持するためにはどうしたら良いのか、小グループ討論と文献紹介等を通して解決策を考えていく。

対象： 臨床現場で実習・研修の指導に関与している医療従事者（定員30名）

WS-6 医療者教育における反転授業とはじめ

T/L

企画：西屋克己（香川大学）、鶴田 潤（東京医科歯科大学）

日時：10月18日(日)9:00-13:00

概要：反転授業とは、従来講義で行っていた知識の伝達を、インターネット上での15分程度の予習動画教材で行い、対面講義では、教員とともに演習や討論、症例検討などを通して、双方向型のアクティブ・ラーニングを行い、知識の活性化を目指す授業形態です。国内外において医学、歯学、看護学、薬学など様々な医療者教育において活用され始めています。このワークショップでは明日から始められる反転授業を目指して、初学者でも理解できる医療者教育における反転授業の理論と実践例を紹介していきます。

対象：反転授業に興味のある医療関係者、事務職員（定員30名）

WS-7 社会科学・行動科学のPBLチュートリアルのための臨床症例のシナリオ教材の作成

T/L

企画：日本医学教育学会 準備教育・行動科学教育委員会（和泉俊一郎、星野 晋、竹腰 進、樫田美雄、道信良子、川上ちひろ、若林英樹、日高友郎、河本慶子）

日時：10月18日(日)9:00-13:00

概要：本邦の全医学部は、国際認証を目指して今まさにカリキュラム改編中で、卒前医学教育は多方面からその充実が期待されている。しかし、社会科学・行動科学（・人文科学）系科目の学習機会は激減が危惧されている。「医師としての人格の涵養」のためには、医学生のうち、これらnon-medicalな領域での学習を通して、広い視野を習得しておくことが肝要と考えられるが、医学生の立場からすれば、医療現場の文脈での視点の修得が喜ばしい。我々委員会は、昨年「クリクラで使えるPBLシナリオをつくろう～多様な視点を医学生に植え付けるために～」と題した第1回のワークショップ（WS）において、医療現場の悩みから発した問題を文化人類学の視点から考察し学習可能なシナリオを創作する作業を本邦初の試みでおこなった。今回は前回のWSで作られたシナリオを素材として、チューターガイドを含めたPBLチュートリアルのための教材を作成する。WSでは、PBLチュートリアル教材の作成指導に今後携わる教員の養成も意図しており、前回同様、卒後を含めた医療実習現場で問題を抱えている教育担当医のみでなく、医学教育に携わる社会学者の参加も歓迎する。事前課題として、参加者へ事前に症例を簡単に配布し問題点の考察を指示する予定である。

対象：医療現場の文脈で社会科学・行動科学的な視点の習得が可能なPBLチュートリアル用教材創作に興味のある医学教育関係者（定員12名）

セミナー Peer-Assisted Teaching

- A tool to be considered at Japanese medical schools? -

T/L

講師：Daisy E Rotzoll（University of Leipzig / MEDC客員教授）

日時：10月17日(土)17:15-18:15



概要：In the past ten years, there has been much international discussion among medical education specialists about the use of peer-assisted learning (PAL) and the associated cognitive, pedagogical, attitudinal, social and economic benefits associated with utilising peer tutors. While peer-assisted learning (PAL) has long occurred informally at medical schools both in Japan and Europe, an increasing international interest in formally organised PAL, in the form of peer-assisted teaching (PAT), is arising. As future medical practitioners and educators, medical students will be expected to supervise, teach, facilitate, assess and provide feedback to colleagues, and contribute to the teaching of future generations of medical students. While e.g. in Germany, medical students are recruited for peer-assisted teaching in anatomy (corpse preparation), medical psychology (patient-doctor communication sessions) and skillslabs (peer-teaching of basic clinical skills and techniques), this method is not so commonly used in Japan. The seminar will focus on possible benefits and backdraws of PAT and participants will be asked to discuss possible integration of this tool into their institutions in Japan.

ここ10年間で、医療教育者の間では学習者相互学習(peer-assisted learning: PAL) の活用や学生チューターがもたらす教育的・態度的、社会的、経済的利点について、国際的に活発に議論が交わされている。医学教育において、長い間、日本でもヨーロッパでもPALは非公式的には活用されてきたが、今では、正規にPALを教育に取り入れること、つまり、相互教育(peer-assisted teaching: PAT)という形態に国際的な強い関心が向けられている。今後、医師や教育者、医学生は同僚への指導、教育、ファシリテート、評価、フィードバックを与えることが期待され、次世代の医学生への教育に貢献することが求められる。例えば、ドイツにおいては、医学生は解剖学のPAL（ご遺体への準備・心構え）、医療心理学（医師-患者コミュニケーションセッション）、スキルスラボ（基本的臨床スキルのピアティーチング）のためにリクルートされるが、こうしたやり方は日本ではあまり一般的ではないかもしれない。このセミナーでは、PATの考えられる利点と欠点を中心に、日本の教育機関にこのような教育手法が統合できるかについて、参加者とディスカッションしたいと思います。

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2015年10月4日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円（資料代）学部学生無料

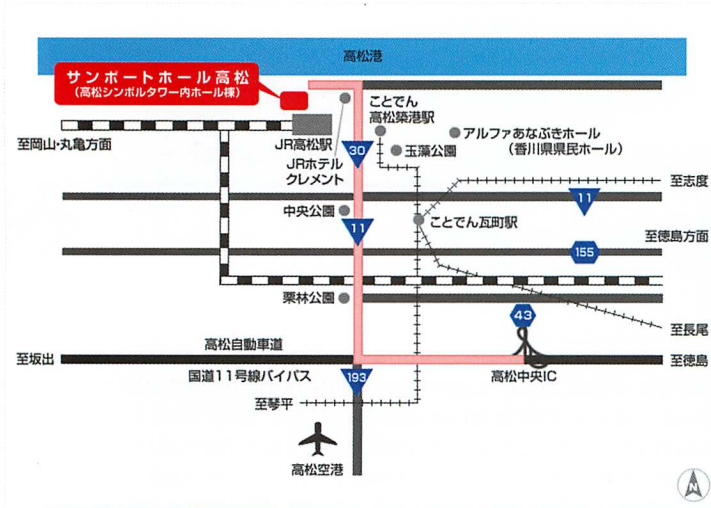
懇親会費： 5,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
資料代は、資料ならびに第58回セミナーとワークショップの報告が掲載されている、「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生には報告書の送付はありません）

会場： サンポートホール高松（5階）

住所：〒760-0019 香川県高松市サンポート2-1

URL：<http://www.sunport-hall.jp/>



- 【鉄道】JR高松駅から徒歩3分
ことでん高松築港駅から徒歩5分
- 【航路】高松港から徒歩2分
- 【陸路】高松自動車道高松中央ICから車で約20分
- 【空路】高松空港からリムジンバスでJR高松駅行き約45分

※詳しい交通案内は、サンポートホール高松HPをご覧ください。



うどん県 

